

米国経済点描（2007.11.3）

～2007年10月の失業率～

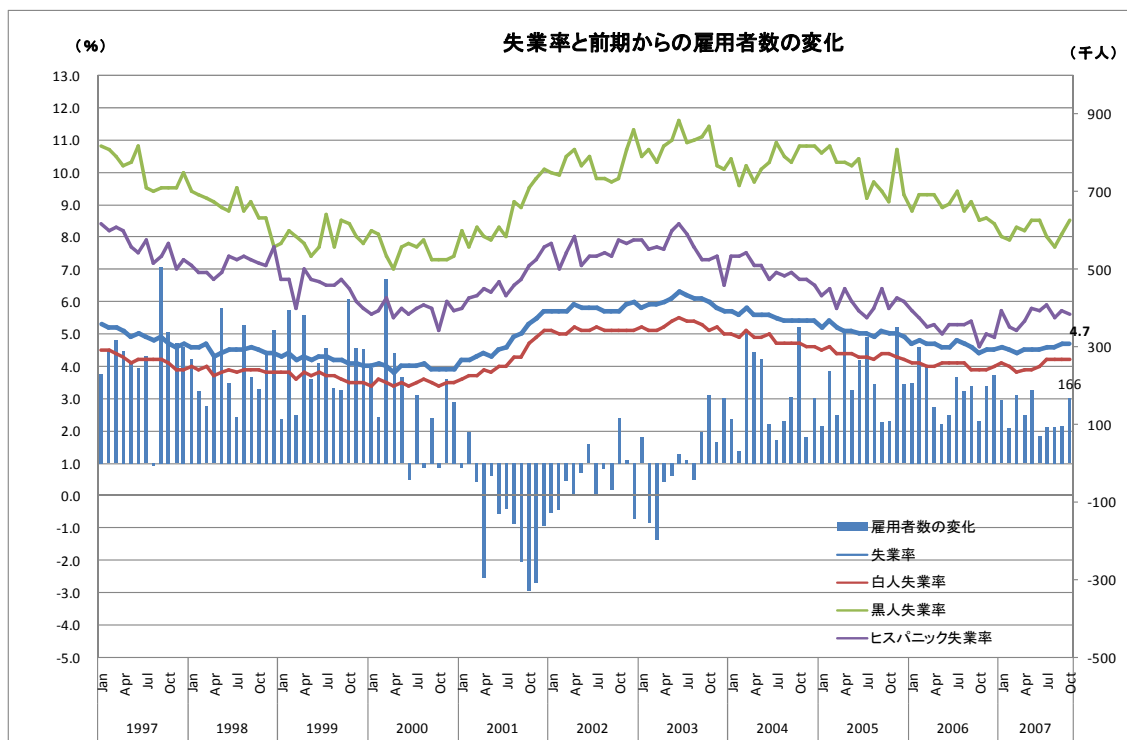
11月2日に米国労働省労働統計局（BLS）が公表した世帯調査に基づく2007年10月の失業率は、前月と同じ4.7%であった。

また、同調査に基づく10月の就業者数は、暫定値で前月より25万人減少。9月は2ヶ月ぶりに46万3千人の増加であったが、再び減少に戻った。

また、事業所調査に基づく非農業部門の雇用者数（industry payroll employment）は、季節調整済みの暫定値で16万6千人増（対前月比0.12%増）と、本年5月以来の10万人を超える増加となった。

雇用情勢は、ヒスパニック系で徐々に失業率の上昇がみられるものの、概ね安定している。ただし、失業率は3月の4.4%に比べるとすでに0.3%ポイント上昇しており、緩やかながら雇用情勢に厳しさが出てきている。

一方、9月の一人当たり可処分所得は、名目および実質とも伸びがゼロとなっており、これらを合わせると、今後の消費支出が減速してことが懸念される。



○お問い合わせ先○

株式会社アクシスリサーチ研究所 〒107-0052 東京都港区赤坂渡辺ビル4F
TEL 03-5572-7770 FAX 03-5572-7771 E-mail contact@axis-research.co.jp